

教育研究業績書		
令和5年 8月 15日		
氏名 板倉 浩幸 印		
研究分野	研究内容のキーワード	
教育学 社会学 子ども学	教育学 教育社会学 社会学 子ども学 (子ども環境学) 森林科学	
1. 教育上の能力に関する事項		
2. 事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例	平成18年8月	平成18年度第56次神奈川県教育研究集会「環境問題と教育」分科会において、「地域の活動を学校へ-NPO法人緑のダム北相模の協力による体験学習-」として、桂北小学校（相模原市相模湖町）と地域NPOが主催する「緑のダム体験学校」との協働実践について発表した。
	平成22年10月	体験を学びにつなげていくのが体験学習法である。ふりかえりと分かち合いによって、学びに到達していくためには、様々なアクティビティをどの段階で使うかななどのデザイン能力が必要となる。「パッケージプログラム」を活用した自然体験活動を教科発展型の総合的な学習の時間で活用して、有効性を検証した。
	平成25年3月	平成23～24年度国立教育政策研究所プロジェクト研究に参加し「学級規模の及ぼす教育効果に関する研究」を行った。理科に於いて学級規模が児童生徒の学力の発達的变化や教師の授業構成や指導方法に与える影響について、①主体的な活動②スペースの活用と教材・教具③学習への参加機会④個別の指導⑤きめ細やかな評価を視点とした効果的な指導の方法を工夫し、検証した。
2 作成した教科書・教材	平成24年3月	基礎的・基本的な知識や技能を習得させ、それらを活用して、問題解決的な学習のための思考力・判断力・表現力を身に付けさせるための2012年度 向陽小学校の校内研究として「向陽ステップ通信」にまとめ、その成果と課題を2012年度 校内研究紀要としてまとめた。
	令和3年7月	第2回森林インストラクターブラッシュアップ研修「森林体験学習等の野外活動における小学生児童への指導」「現代の子どもたちが必要とする体験を中心とした学び」—現代の子どもたちを取り巻く状況、特性、体験を通じて学ぶことの大切さと体験学習の例についての教材作成。「学校教育と連携する森林環境教育」について、学習指導要領の改訂の履歴と、その意図していること、体験が不足している子どもたちへの森林体験学習を通じた教育の在り方についての教材作成。
	令和4年7月	国土緑化推進機構「みどりの少年団研修交流会」使用のオンデマンド動画教材作成をした。学習指導要領と体験活動の関係や実際の現場での扱い、学校教育における教育課程のあり方や体験活動の意義や位置づけ、「小学校森林ESD協働開発ツール(SET)」の活用について

		て解説し、市や団体の緑の少年団担当者に学校教育との協働のポイントや方法、体験活動の意義や効果解説した。
3 教育上の能力に関する大学等の評価		特になし
4 その他		
レクリエーションリーダー育成、体験会や講習会の企画運営	昭和60年3月～	日本レクリエーション協会公認指導者として、レクリエーションリーダーの育成やGWT（グループワーク・トレーニング）による人間関係の形成を行った。
小学校教諭（常勤）	昭和63年4月～現在	神奈川県教育委員会小学校教諭 平成22年より相模原市の政令市移行により、相模原市教育委員会 神奈川県城山町立川尻小学校教諭、フランクフルト日本人学校教諭、神奈川県城山町立川尻小学校教諭、神奈川県津久井町立 中野小学校教諭、神奈川県相模湖町立 桂北小学校教諭、神奈川県相模原市立 向陽小学校教諭、神奈川県相模原市立 九沢小学校教諭、神奈川県相模原市立 相原小学校教諭、神奈川県相模原市立津久井中央小学校教諭として長年教育現場で実務を行ってきた。
地域ネイチャーゲームの会企画指導	平成9年5月～	公益財団法人日本シェアリングネイチャー協会公認指導員として、地域ネイチャーゲームの会のネイチャーゲームのイベントの企画指導を行った。
プロジェクトワイルドの体験会や講習会の企画運営	平成12年2月～	一般財団法人公園財団プロジェクトワイルド公認指導員として体験会や講習会の企画運営を行ったり、総合的な学習の時間での活用を計画・支援・実践したりした。
自然体験活動指導者の体験会や資格取得のための講習会の企画運営	平成18年2月～	CONE（自然体験活動推進協議会）公認指導員として体験会や講習会の企画運営を行った。（地域社会学科の魅力である、地域の方々との出会い、体験するおもしろさ、視点の広がりなどがある充実したワークショップ演習・フィールドワークに対応）自然体験活動指導者（NEAL）公認資格付与が可能
川に学ぶ体験活動の体験会や資格取得のための講習会の企画運営	平成18年2月～	RAC（川に学ぶ体験活動協議会）公認指導員としてEボート体験会や防災教育、リスクマネジメント講習会の企画運営を行った。（地域社会学科の魅力である、地域の方々との出会い、体験するおもしろさ、視点の広がりなどがある充実したワークショップ演習・フィールドワークに対応）自然体験活動指導者（NEAL）公認資格付与が可能
プロジェクトWET 公認指導員として体験会や講習会の企画運営	平成20年1月	一般財団法人河川財団プロジェクトWET公認指導員として体験会や講習会の企画運営を行った。（授業「環境教育概論」「環境教育実習」「演習（環境教育）」などでのプロジェクト学習（PBL）に対応）プロジェクトWET公認資格付与が可能

生涯学習支援等への貢献	平成 22 年 12 月 6 日より現在に至る	平成 22 年 12 月 6 日に設立された「体験創庫かけはし」のサポートスタッフとして、活動支援を行っている。岐阜県内を中心に在住するブラジル学校の子ども達と、日本育ちの子ども達が交流しながら文化や言葉の違いを越えて、共に野外活動を楽しむキャンプの運営指導を行ったり、地元である長野県松本市の保育園や小学校の子ども達が田植えと稲刈り・はぜかけ、脱穀体験をするプログラムを実施したりしている。
CONE（自然体験活動推進協議会）リスクマネージャーとして施設等の安全マニュアル作りの助言	平成 23 年 11 月	自然体験活動リスクマネージャーとして、施設等の安全マニュアル作りの助言を行った。（授業において、体験学習時のリスクマネジメントのレクチャーに対応。「ワークショップ演習」「フィールドワーク」「プロジェクト研究」に対応）
資料作成・講師	平成 27 年 6 月 14 日～	中野区キャンプ・レクリエーション協会主催 公益社団法人 日本キャンプ協会公認のキャンプインストラクター養成講習会「キャンプの対象」 資料作成・講師（毎年開催 現在に至る）
使用教材作成・講師	平成 29 年 7 月 9 日	NPO 法人自然体験活動推進協議会認定 CONE リスクマネジメント基礎講座、使用教材作成・講師 対象：保育士・幼稚園教諭・子どもの活動に関わりたい方、保護者・地域の方
使用教材作成・講師	平成 29 年 8 月 4 日	松本市保育研究協議会 自然部会 研修 使用教材作成・講師
使用教材作成・講師	平成 31 年 3 月 2 日～3 日	国土緑化推進機構助成金対象事業 幼児と自然の中でかけるための NEAL（自然体験活動指導者）養成講座使用教材作成・講師 幼児期における体験活動、自然体験活動の特質、対象者（幼児）理解、自然体験活動の指導と技術、自然体験活動の企画運営
使用教材作成・講師	平成 31 年 3 月 30 日午前	ESD を知ろう！学ぼう！講習会使用教材作成・講師 対象：パパ・ママ・お子さんを育てている方、地域で活動されている方、次世代に残したいものを見据えたい方、保育や教育の現場におられる方
使用教材作成・講師	平成 31 年 3 月 30 日午後	NPO 法人自然体験活動推進協議会認定 CONE リスクマネジメント基礎講座 自然体験活動における安全管理の在り方を知る「こどもと森でかける前に大切なこと」使用教材作成・講師 （授業において、体験学習時のリスクマネジメントのレクチャーに対応）
生涯学習支援等への貢献	平成 31 年 3 月 30 日	「ESD を知ろう！学ぼう！講習会」として、任意団体のいちご会が開催した講習会の講師を行った。長野県茅野市ゆいわーく茅野にて、対象をパパ・ママ・お子さんを育てている方、地域で活動されている方、次世代に残したいものを見据えたい方、保育や教育の現場におられる方として行った。
生涯学習支援等への貢献	令和元年 7 月	特定非営利活動法人「やまぼうし自然学校」のサポートスタッフとして、森林ボランティア養成コースなどでの指導者養成事業や自然体験環境教育事業について活動支援を行っている。現在、インバウンド事業立ち上げの準備中である。

産業支援	令和元年8月20日	長谷萬グループを対象とし、社内勉強会を行った。 SOCALハウスが目指す「アウトドアな暮らしの魅力」、お子さんや家族に体験学習を行う際のファシリテーターとしてのポイントをカスタムホームズや木ラボでイベントを実施社員育成とプログラム開発や相談を行った。
グローイング・アップ・ワイルド公認指導員として体験会や講習会の企画運営	令和2年3月	一般財団法人公園財団グローイング・アップ・ワイルド公認指導員として体験会や講習会の企画運営を行った。プロジェクト学習(PBL)に対応、グローイング・アップ・ワイルド公認資格付与が可能
養成講座使用の教材作成 ・指導者養成	令和2年3月	国土緑化推進機構助成金対象事業 森のようちえん ボランティアリーダー養成講座使用の教材作成 SDGsの観点からみた幼児教育について講義、体験型水教育プログラム指導者養成、グローイング・アップ・ワイルド(幼児対象)指導者養成
防災教育講師	令和2年11月6、7日	地域発長野県元気づくり支援金助成による講座「森のようちえん 災害シミュレーションキャンプ」講師(年一回開催 現在に至る)
使用教材作成・講師	令和3年 10月9日、 10月30日、 11月6日、 11月7日	国土緑化推進機構助成金対象事業 森のようちえん ボランティアリーダー養成講座使用教材作成・講師 SDGsの観点からみた幼児教育について講義、体験型水教育プログラム指導者養成、グローイング・アップ・ワイルド(幼児対象)指導者養成
オンライン交流講座講師 研究プロジェクトの企画・参画	令和4年9月	Forest ESD for Children「Universiti Tunku Abdul Rahman EE Workshop」 紹介文：Hiroyuki Itakura is a teacher at Sagami-hara Municipal Aihara Elementary School. He has been exploring ways to promote sustainability and independence in school and social education using experiential learning as a basic method. In addition to subject education at elementary schools, he has focused on themes such as cooperation with young children and early childhood education. He also trains leaders for nature experience learning and packaged programs. His research focuses on forest ESD. マレーシアの小学校教諭・就学前教師を対象としたオンライン交流講座において、主テーマ「幼児期の環境教育」に対す日本の環境教育モデル、体験学習に重点をおいた取り組みの報告を英語にて行った。
東京農工大学農学部 地域生態システム学科 インタープリテーション技術 環境資源科学科 森林実習 農学部共通専門科目 FS(フィールドサイエンス) 実験実習	令和4年10月	PLTプロジェクト・ラーニング・ツリー、プロジェクトWE T、PWプロジェクトワイルド等のパッケージプログラムを行う際の講師補助を行った。体験学習時のリスクマネジメントについて、PP(パワーポイント)を使って講義を行った。アクティビティの体験、ワークショップ(参加型学習)を取り入れ、伝えるための手法を学ぶ。すべての授業を履修し、試験に合格することにより、自然体験活動指導者「NEALリーダー」の資格が取得できる授業を行った。

東京農工大 TA ティーチング・アシスタント	令和5年1月～3月	「教職実践演習」における授業補助 「教育制度論」における授業補助、受講者提出物に対する助言 次年度授業の授業準備補助 「教職実践演習」における事前事後サポート		
東京農工大 TA ティーチング・アシスタント	令和5年5月11日・5月12日	農学部および工学部部の教職科目である「教職概論」において、「教育学に関する研究とは」という題目で特別講義を行った。		
研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
「環境教育の実践例」地球の環境問題への学習	単著	平成26年8月	理科の教育 8月号 P30-p31	「地球の環境問題への学習ー環境のつながりへの気づきー」として、教員向けに「学校での環境教育」の実践について、事例を交えながら解説した。
「Lesson Study」を使った中高免許教職履修者の「教育課程」にかかわる学習の成果と課題	共著	令和3年1月	農学・環境系の教職実践研究 4巻2号 P33-38 本稿は、 板倉浩幸・ 菊池稔・ 降旗信一 による。	現職教員の研修において実施・活用されてきた「授業研究の事後協議会」(Lesson Study)が大学の教職課程においても一定の学習効果が期待されるのではとの仮説に基づき、中高免許教職履修者の「教育課程」にかかわる授業において模擬授業および協議会を実施した。
パッケージプログラムを活用した自然体験活動の成果と課題「季節ごとの動植物の活動や成長を追求する環境教育実践の成果と課題」	単著	令和3年12月	東京農工大学農学部教職課程研究室農学・環境・福祉・DX系の教職実践研究 5巻2号 p3-p10	本研究では、「パッケージプログラム」を使った自然体験活動を教科発展型の総合的な学習の時間で活用して有効性を検証した。「協同学習」の手法は、小集団で児童の取り組み方を学ぶことで自分の学習と互いの学習を最大限に高めようとする中で主体的・対話的で深い学びを実現できただけでなく、意思決定や話し合いの手順を学んだことがお互いの理解を高め児童同士の争いも少なくなるなど子ども理解、子ども指導の面でも有効であることが分かった。
季節ごとの動植物の活動や成長を追求する環境教育実践の成果と課題	単著	令和3年12月	東京農工大学農学部教職課程研究室農学・環境・福祉・DX系の教職実践研究 5巻2号 pp.11-16	野外での観察を活かした学習のテーマで、相模原市立向陽小学校4年理科「生き物の暮らし(秋の自然)」の授業実践を国立教育政策研究所の報告書に執筆した。授業にかかわる理科教員の視点として「練り上げモデル」を示した。学習を年間通した観察活動を中心に進めることにした。観察を通して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、判断して行動し、身近な環境を意識して、それぞれに思い描く生活、幸せを実現するための力を育成したいと考えた。

2つの異なる単元を1つの大単元として再構成した環境教育実践の成果と課題	単著	令和3年12月	東京農工大学農学部教職課程研究室農学・環境・福祉・DX系の教職実践研究5巻2号 p17-p21	理科における扱う自然事象を領域期に関係なく体験ごとに再構成し、大単元として再構成した、「学びのステップ」を大切にしながら「体験活動」を充実させることにより「実感を伴う経験の蓄積」を図ることで、子どもの「豊かな学び」を育む理科教育の創造ができるであろうと仮説を立てた。意図的な体験活動を充実させることによって、経験に基づいた根拠のある意見をもてるようになった。
「持続可能な社会づくりにつながる教育としての森林ESD実践の課題	単著	令和3年12月	東京農工大学農学部教職課程研究室農学・環境・福祉・DX系の教職実践研究5巻2号 p22-p32	理科における扱う自然事象を領域期に関係なく体験ごとに再構成し、大単元として再構成した、「学びのステップ」を大切にしながら「体験活動」を充実させることにより「実感を伴う経験の蓄積」を図ることで、子どもの「豊かな学び」を育む理科教育の創造ができるであろうと仮説を立てた。意図的な体験活動を充実させることによって、経験に基づいた根拠のある意見をもてるようになった。
2008年改訂の学習指導要領における「社会科」における問題解決型学習の課題	単著	令和3年12月	東京農工大学農学部教職課程研究室農学・環境・福祉・DX系の教職実践研究5巻2号 p33-p47	本研究は、学習指導要領改訂に合わせ、社会科の指導法について論じたものである。大量生産・大量消費型の社会から、持続可能な資源循環型社会へと意識を変えるためには、問題解決を自主的に進めていくこと、教師側が子どもたちの思考に沿った「学習展開」をすることが大事であると考えた。『問題解決の学習ステップ』を設定し、検証を行った。「問題解決の方法」を身につけ、活用でき、知りたいことを自分の力で解決できることが楽しい社会科学習につながるようになった。
学校教育における道徳教育の役割に関する研究ノート	単著	令和3年12月	東京農工大学農学部教職課程研究室農学・環境・福祉・DX系の教職実践研究5巻2号 pp.48-53	学校の教育活動全体を通じて、道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養うことを実践するために、道徳の授業づくりの着眼点をあげ、授業実践を行った。CAPの活動を取り入れたり、ワークシートを活用したりすることによって「考える道徳」の実践をこころみた。
幼児期における「森のようちえん」の役割	単著	令和3年12月	東京農工大学農学部教職課程研究室農学・環境・福祉・DX系の教職実践研究5巻2号 p54-p65	本研究は、現代的な教育の理念としての自然教育について論じたものである。子どもたちをとりまく問題の一つに、自然と接する時間が短くなってしまっていることがあげられる。自然に親しみ、目的意識をもって調べる能力や態度を育てるとともに、様々な見方や考え方を養えるようにしなければならない。
小学校における森林ESDアクティビティの可能性 一教員と実践家の協働による教育課程づくりに向けて—	単著	令和4年3月	共生社会システム学会「共生社会システム研究」 第16巻 P232~P252	本研究では、森林ESDアクティビティ（森林ESDのための具体的活動）が教育課程にどのように位置づくのかを教員がより深く認識する方法、および教員と実践家との協働研究に向けた実践家からの具体的な提案の方法の開発を考え、小学校で森林ESDを実践するための森林ESDアクティビティの課題を設定した。 学習指導要領の内容に対して森林ESDアクティビティが使えることを示す対応表を作成し、「小学校森林ESD協働ツール（SET）」

				とし、SET を利用した調査を小学校教員対象に、地域の実践家と連携して行った。 査読あり
(学術論文等)				
(学術論文) 小学校における森林 ESD アクティビティの可能性 一教員と実践家の協働による教育課程づくりに向けて一	単著	令和 4 年 3 月 28 日	共生社会システム学会「共生社会システム研究」 第 16 巻 P232～P252	本研究では、森林 ESD アクティビティ（森林 ESD のための具体的活動）が教育課程にどのように位置づくのかを教員がより深く認識する方法、および教員と実践家との協働研究に向けた実践家からの具体的な提案の方法の開発を考え、小学校で森林 ESD を実践するための森林 ESD アクティビティの課題を設定した。 学習指導要領の内容に対して森林 ESD アクティビティが使えることを示す対応表を作成し、「小学校森林 ESD 協働ツール (SET)」とし、SET を利用した調査を小学校教員対象に、地域の実践家と連携して行った。
小学校における森林 ESD の教育方法としての課題	単著	令和 3 年 3 月 1 日	一般社団法人日本環境教育学会 関東支部年報 No.15 p33 - p38	本研究は、地域（社会教育）と小学校（学校教育）との関係性を教育方法論の視点から探るため、地域を基盤とする森林教育のプラットフォームを念頭に、その教育方法を確認し、地域と学校の共通の目的遂行を実現する組織作りのあり方を明らかにし、「森林 ESD」が学校教育での教育本来の目的に迫るものであることを示すものである。小学校教員へのアンケートによる意識調査を行い、森林教育に内包した学校教育における可能性についての基礎資料を作成した。
森林教育の成立と発展 一森林 ESD 論の理論的検討にむけて一	単著	令和 4 年 3 月	一般社団法人日本環境教育学会 関東支部年報 No.16 p21-p26	森林 ESD アクティビティを授業に取り入れるための課題に迫るものである。「社会に開かれた教育課程」が求められていることもあり、これまで学校教育の中で閉じられてきた教育方法論の議論を社会教育研究と統合させる新たな視点が課題となる。学級経営論、授業論などを社会教育の実践者と共有し、共通の授業イメージをもち、教員組織と実践家組織による、組織的な協働の授業作りの実践を積み上げることで、小学校教員と実践家との協働の教育課程づくりにつながるものと考えられる。
小学校における森林 ESD 研究の方法論的考察	単著	令和 5 年 1 月 10 日	東京農工大学農学部教職課程研究室農学・環境系の教職実践研究 6 巻 2 号 p 3- p 14	本研究は、森林 ESD アクティビティを授業に取り入れるための課題に迫るものである。これまで学校教育の中で閉じられてきた教育方法論の議論を社会教育研究と統合させる新たな視点が課題となる。学級経営論、授業論などを社会教育の実践者と共有し、共通の授業イメージをもち、教員組織と実践家組織による、組織的な協働の授業作りの方法論について考える。

小学校における教育課程史としての森林 ESD の課題 —北海道上川総合振興局下川町を事例に—	単著	令和5年1月10日	東京農工大学農学部教職課程研究室農学・環境系の教職実践研究6巻2号 p15・p28	本研究は「北海道上川総合振興局下川町を事例に」研究を行った。はじめに、「小学校における教育課程史」を掘り起こしの森林 ESD 成立までの過程を特定した。教材として学習内容を学ぶこと、活動の学習方法、人材を活用する方法について知見を得ることができた。
住民の「小学校における教育課程」学習としての森林 ESD の課題 —北海道上川総合振興局下川町の NPO 実践を事例に—	単著	令和5年1月10日	東京農工大学農学部教職課程研究室農学・環境系の教職実践研究6巻2号 p29・p41	本研究では「住民の教育課程学習としての森林 ESD の課題」について問うことで学校主体から地域の実践家（NPO 等）との協働するための糸口に着目した。下川町から事業委託を受けて持続可能な社会づくりの担い手を育むために実践家が教育課程について理解し、活用しようとしたこと、学校と地域をつなぐものとしての役割を森林 ESD が担っている事などの知見を得ることができた。
教育成果を用いた評価方法 —事後課題シートの活用事例—	共著	令和5年4月10日	東京農工大学農学部教職課程研究室農学・環境系の教職実践研究7巻1号 P3・p9 本稿は、板倉浩幸・山本理による。	大学教育における教育成果を用いた評価方法を検討することである。成果に準拠したアプローチの必要性は広く認識されるようになってきている。本稿では東京農工大学で教職科目である、教育課程論での15回の授業ごとの事後課題シートによる受講者の反応から大学での教育評価のあり方について考えた。
(実技歴)				
平成29年度子ども夢基金助成活動 全国自然体験活動指導者集会 2017(全国キャラバン) 自然体験活動フォーラム 長野大会	大会講師	平成29年11月11日～12日	NPO 法人自然体験活動推進協議会	「自然体験活動は次世代へ～自然体験活動とアクティブラーニング～をテーマに」大会実行委員として企画・運営を行うとともに、講師として話題提供やワークショップを行った。
平成29年度子ども夢基金助成活動 全国自然体験活動指導者集会 2017(全国キャラバン) 自然体験活動フォーラム 兵庫大会	大会講師	平成29年12月16日～17日	NPO 法人自然体験活動推進協議会	「自然体験活動は次世代へ～自然体験活動とアクティブラーニング～をテーマに」大会実行委員として企画・運営を行うとともに、講師として話題提供やワークショップを行った。
平成29年度子ども夢基金助成活動 全国自然体験活動指導者集会 2017(全国キャラバン) 自然体験活動フォーラム 広島大会	大会講師	平成30年1月20日～21日	NPO 法人自然体験活動推進協議会	「自然体験活動は次世代へ～自然体験活動とアクティブラーニング～をテーマに」大会実行委員として企画・運営を行うとともに、講師として話題提供やワークショップを行った。
平成29年度子ども夢基金助成活動 全国自然体験活動指導者集会 2017(全国キャラバン) 自然体験活動フォーラム 富山大会	大会講師	平成30年2月7日～2月8日	NPO 法人自然体験活動推進協議会	「自然体験活動は次世代へ～自然体験活動とアクティブラーニング～をテーマに」大会実行委員として企画・運営を行うとともに、講師として話題提供やワークショップを行った。

平成 29 年度子ども夢基金助成活動 全国自然体験活動指導者集会 2017(全国キャラバン) 自然体験活動フォーラム 北海道大会	大会講師	平成 30 年 2 月 17 日 ~ 18 日	NPO 法人自然体験活動推進協議会	「自然体験活動は次世代へ～自然体験活動とアクティブラーニング～」をテーマに」大会実行委員として企画・運営を行うとともに、講師として話題提供やワークショップを行った。
平成 29 年度全国自然体験活動指導者集会ラップアップフォーラム 国立オリンピック記念青少年総合センター	各フォーラム実行委員として	平成 30 年 3 月 17 日 ~ 18 日	NPO 法人自然体験活動推進協議会	全国開催の CONE 主催「自然体験活動指導者フォーラム」、国立青少年教育施設主催「自然体験活動フォーラム」の実績報告を共有し、自然体験活動指導者養成制度 (NEAL) の理解や自然体験活動の普及促進に向けた次年度事業への提言をまとめた。大会実行委員として企画・運営を行うとともに、講師として話題提供やワークショップを行った。
(その他・口頭発表等)				
(学会発表) 森林 ESD の小学校の総合的な学習の時間及び理科への導入の研究	単著	令和元年 8 月 23 日 ~ 25 日	一般社団法人日本環境教育学会 第 30 回年次大会 (山梨)	「ESD」は、現代社会の課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組むことにより、課題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出し持続可能な社会を創造していく。そこで、身近にある自然を対象にした「森林 ESD」を生かした体験活動を総合的な学習の時間や理科に取り入れることによって、持続可能な社会づくりに向けた問題解決に必要な能力・態度を身につけることができる。と考える。
小学校における森林 ESD の教育方法としての課題	単著	令和 3 年 8 月 20 日 ~ 22 日	一般社団法人日本環境教育学会 第 32 回年次大会 (北九州)	森林環境教育等の充実として、持続可能な社会の構築に果たす森林・林業の役割や木材利用の意義、小中学校の「総合的な学習の時間」における探究的な学習への学校林等の身近な森林の活用など、体験・学習する機会の提供や、木の良さやその利用の意義を学ぶ活動を推進されてきた。本研究では、森林 ESD が教育課程にどのように位置づけるかを教員がより深く認識する方法、および教員と実践家との協働研究に向けた具体的な提案の方法の開発を念頭に基本的課題を設定した。
教員と実践家の協働の教育課程づくりの課題 ー森林 NPO の取り組みからー	単著	令和 4 年 3 月 1 日	一般社団法人日本環境教育学会 関東支部年報 No.16 p21-p26	森林 ESD アクティビティを授業に取り入れるための課題に迫るものである。「社会に開かれた教育課程」が求められていることもあり、これまで学校教育の中で閉じられてきた教育方法学の議論を社会教育研究と統合させる新たな視点が課題となる。学級経営論、授業論などを社会教育の実践者と共有し、共通の授業イメージをもち、教員組織と実践家組織による、組織的な協働の授業作りの実践を積み上げることで、小学校教員と実践家との協働の教育課程づくりにつながるもの。と考える。
「森林 ESD プログラムによる児童のソーシャルスキルの向上の効果」	共著	令和 4 年 3 月 5 日 ~	北海道自然体験活動推進協議会 (えぞ CONE) ・ 日本環境教育学	持続可能な社会の実現に向けて、「批判的思考」「見識ある決定」「責任ある行動」を身に付けた人を育む教育が「持続可能な開発のための教育である。協同学習は主体的・対話的に学ぶ最良の手法と考えられ、また、ソーシ

		6日	会北海道支部 合同フォーラム 2022 本稿は、 板倉浩幸・ 川村蒼汰 による。	ヤルスキルの向上も期待できる。小学校の総合学習に協同学習の手法を取り入れた森林ESDプログラムを実施し、児童にアンケートを行いソーシャルスキルの向上の効果を検討した。
「児童の意識と行動に及ぼす森林ESDの効果」	共著	令和4年3月5日～6日	北海道自然体験活動推進協議会（えぞCONE）・日本環境教育学会北海道支部合同フォーラム2022 本稿は、 板倉浩幸・ 柴田理沙による。	現代社会で起こっている貧困、格差社会、資源の減少、異常気象といった様々な問題を解決し、持続可能な社会を発展させていくために達成すべき国際目標として、SDGsが決められた。問題に気づき、当事者意識を持って解決できる人を育てることが必要である。ESDの効果や、プログラム内容や授業法などの効果的な因子を明らかにすることを目的とし小学校の総合的な学習の時間に森林ESDを行い、その実施前後の児童へのアンケート調査により検討を行った。
小学校における森林ESD—小学校における教育課程史としての森林ESDの課題	単著	令和4年8月27日～28日	一般社団法人日本環境教育学会第33回年次大会（東京）	森林ESDを「持続可能な社会づくりに向け、問題解決に必要な能力・態度を身につけさせるため森林・里山を活用した人材育成システム」とし、森林・林業を持続的な発展のための中核産業として位置付けている地域の公的教育機関においてどのように成立し、発展したのかのプロセスを教育課程史としてとらえた。また、大会実行委員として活動した。
幼児の教育と環境	共著	令和4年12月3日～4日	日本自然保育学会第7回大会（新潟） 本稿は、 板倉浩幸・ 伊藤美穂子による。	指導と支援のバランスを考えた保育について実践をもとに、現代の幼児、子どもたちを取り巻く現状を捉え先行事例や実践を通して自然保育を捉え、幼児の心身また興味関心を育む環境のあり方について報告を行った。
小学校における森林ESDの可能性—北海道下川町を事例に—	単著	令和5年3月	一般社団法人日本環境教育学会関東支部大会修士論文・博士論文等合同発表会	一般社団法人日本環境教育学会関東支部大会修士論文・博士論文等合同発表会において報告を行った。本論文の目的は、「小学校における森林ESDの可能性」を明らかにすることである。ここでいう森林ESDは、「持続可能な社会の構築の観点で行われる『森林および木』を題材とした体験・問題解決型の学習（ESD）」のことである。